

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No. 16

再建 50 周年を迎えた広島城天守閣を
よろしくお願ひします

広島城天守閣再建 50 周年記念事業

すなもち か せい 「砂持加勢」まつり参加者募集！

すなもちかせい
「砂持加勢」：それは幕末に広島城下で行われた本川の川床の砂を握りさらえる「川握り」という作業の景気づけに行われたお祭り。広島城下の各町が山車を作り仮装して祭りを盛り上げました。



今回広島城では、幕末に一度だけ行われたこの祭りを「広島本川川ざらへ 町中砂持加勢図」に基づき再現します。そこで山車の製作や祭りへ参加して下さる方を大募集！一緒に仮装や山車で「砂持加勢まつり」を盛り上げませんか？

申し込み・お問い合わせは
広島城 (082)221-7512 まで！



※「砂持加勢」まつりは10月4日(土)正午開始予定 [小雨決行。悪天候の場合は10月5日(日)]



城下を騒がせた動物たち

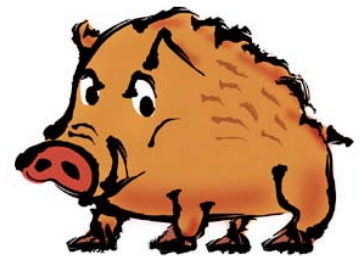
今回は、しろうやNo.1のブタ、No.7の鶴に続く「城下町にいた動物シリーズ第3弾」として、城下を騒がせた動物たちについて紹介しようと思います。



まずは馬。当時馬は交通・輸送の手段として使われていて、多くの馬たちが普通に町中を行き来していました。宝暦12年(1762)、一頭が突然暴れ出したのです。場所は猫屋町(中区猫屋町・^{えの}榎町)で、馬は東に向かって街道を爆走!猫屋橋(現在の本川橋)、元安橋を渡り、当時城下の目抜き通りだった革屋町(中区本通交差点付近)に入りました。馬は人々に噛みついて傷つけるなどして大暴れ。人々がなすすべもなく騒いでいると、江戸十と呼ばれる暴れん坊がやってきたのです。彼は人々が止めるのも聞かず馬に接近、馬は彼を見ると一直線に走ってきました。彼は持っていた傘で^{みけん}応戦、眉間や鼻っ柱をはっしと打ち付け、馬はたまらず再び東へと逃走したのでした。江戸十は見物人からやんやと賞賛されたそうです。さて馬はというと、途中で南へと進路を変え、現在の並木通りに入りました。当時この通りは平田屋川と呼ばれる運河で、馬は運河沿いに南へと走り抜けたのです。その後現在の竹屋町付近に入りました。当時このあたりは町はずれで、藩主の鷹狩り場があるような野原が広がっていました。ここで一休みして草を食べていた時に遂

に取り押さえられたのです。

現在と比べて比較にならないぐらい自然が残っていた城下のはずれには、さまざまな動物が生息していました。特に比治山(南区)は、以前鶴なども生息していたことをご紹介しましたが、そのほかイノシシなども出没していました。比治山は広島藩の藩有林で、草木の伐採や動物の捕獲が禁止されていました。そのため草木は繁茂し、イノシシの恰好の生息場所となっていたのです。このイノシシが作物を食い荒らすため、寛政12年(1800)に藩は大がかりな草刈りを行いました。そのため、イノシシは黄金山(南区)方面へ逃げましたが、そこも追い立てられまた比治山に戻って来ています。同じ年、このうちの1頭が当時^{さむらい}侍町だった薬研堀(中区)付近に出て騒動を起こしました。このイノシシは後に現在の広島市女性教育センター(中区大手町5丁目)あたりにあった家老上田家の下屋敷近くに移動しました。この屋敷は藩主の鷹狩り場と隣接しており、イノシシはその藪のなかに潜んでいたようです。結局、^{ほんきょう}獵師が本逕寺(中区大手町3丁目)近くで張っていた網にかかり、最後は斧で討ち取られてしまいました。大きさは3尺(約1メートル)あったようです。



宝暦8年(1758)5月上旬ころ、城内大手郭の大木の枝に一匹の猿が住みつき



ました。その大きさはなんと12～3才の子供ぐらい。屋敷の屋根を伝って、西横町にまで来ていました。西横町は現在の大手町1丁目ですから、こんな街中にもかつては大きな猿が現れたことが分かります。さて、この猿、町屋の二階に上がり込んで、いろいろ食べ荒らししたりしたようです。前年この場所に鹿が現

れ、その直後に大火事（宝暦の大火）が起こっていることから、人々は猿が現れた今回は何が起こるのだろうかと思々恐々となりました。しかし、何事もなく、猿もいつものまにか姿を消したのでした。

当時の広島城下には多くの動物が出没していた様子がかがえませんが、今も昔も動物たちと共存するのはなかなか難しいようですね。（本田）

おしえて！ 広島城博士 11

Q 天守閣や二の丸の壁にあいている

□・△の穴は何のためのもの？

A 広島城では天守閣や二の丸の建物や塀に□・△などの小窓のようなものを見ることができちゃう。これらは狭間^{さま}といって、城内に攻めこんでくる敵を攻撃するための穴なんじゃ。狭間には□・△などいろいろな形があるんじゃが、使う武器によってその形や高さが違うんじゃ！鉄砲で攻撃する狭間^{てっぽうさま}は鉄砲狭間、弓矢で攻撃するための狭間は矢狭間^{やさま}と呼ばれておるんじゃ。



◀ 広島城二の丸多聞櫓の狭間
真ん中の口は矢狭間、両端の□・△は鉄砲狭間です

では実際に狭間をよーく見てみよう。パッと見た限りは、木枠でできたただの小窓のように見えるが、攻撃するための工夫が隠されておるんじゃ。これらの狭間、なんと建物の外側より内側の方が穴が大きくなっておるんじゃ！このような造りにすると、中から外はよく見えるので、攻撃する時に狙いやすい。逆からは建物の内側が見えにくいので、狙いにくなるんじゃ。天守閣の中では、第一層の石落としや体験コーナーで、また二の丸の復元された建物でも実際に外を見ることができちゃうぞ！狭間から外がどんなふうに見えるかのう？！ぜひ自分の目で実際にのぞいてみてくれ！（川橋）

さあ、何でも聞いて
ごじゃれ！
今回の質問はこれ！



▲天守閣の鉄砲狭間
外側と内側の大きさの違いがわかるかな？



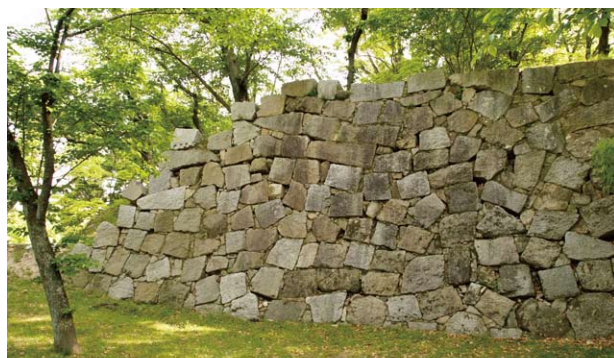
▲二の丸の塀でも見られるぞ！

正則の足跡 –不規則に途切れる石垣!?!–

広島城の本丸では、周辺より一段高くなった部分が、便宜的に本丸上段と呼ばれています。上段の周囲は、北面と西面が石垣で、東面と南面は土だけの法面のりめんになっているのですが、その中に広島城の歴史の一角を雄弁に物語る場所があります。

その場所とは、北面に築かれた石垣の東端部で、あたかも工事が途中で中断したかのように、石垣が不規則に斜めに途切れています。

実はこの場所、福島正則改易が決定される直前の元和5年（1619）5月頃、正則

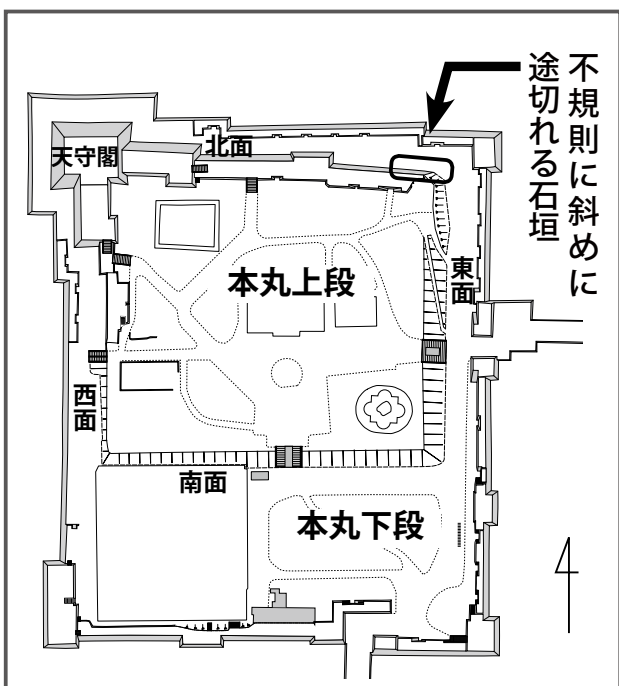


本丸上段北面石垣の東端付近（北西から）

の広島城修築を知った江戸幕府が、正則に命じて石垣を破壊させたという史実を示すと考えられています。

福島氏改易については、広島城の無断修築がきっかけとなったことは有名ですが、改易が決定される前に幕府が条件付きで一旦正則を許したことはあまり知られていません。その条件の一つに、修復した石垣を壊すというものがあり、正則が家臣に本丸石垣の破壊を命じたことも確認されています。つまり、石垣が不規則に途切れている部分は、正則によって破壊された石垣との境目と言えそうなのです。

広島城は福島氏時代に完成したと言われますが、今日の史跡広島城跡内において正則の足跡を如実に示すものはそう多くありません。その意味でも、もっと多くの人に注目してほしいと思います。（篠原）



**広島城のホームページアドレスが変わりました
キッズページや携帯サイトも登場！ぜひ活用してください！**

新しいアドレス ☞ <http://www.rijo-castle.jp>

携帯サイト ☞ <http://www.rijo-castle.jp/rijo/m/mhome/html>



しろうや！

広島城

編集・発行

財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成20年5月26日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

（12月～2月までの平日は9：00～17：00）

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人360円（280円）

小人180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト